日本赤十字九州国際看護大学/Japanese Red

Cross Kyushu International College of

Nursing

ウェルビーイングとは何か、概念・意味の可視化／可触化

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-10-01 キーワード (Ja): キーワード (En): well-being, visual tree, 3D printer 作成者: 守山, 正樹 メールアドレス: 所属:
URL	https://jrckicn.repo.nii.ac.jp/records/672

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

WB11 ウェルビーイングとは何か、概念・意味の可視化／可触化

https://taiwa-act.blogspot.com/2014/02/wb11.html

ウェルビーイングとは何か、その意味を考えるマイクロレクチャー（オンライン講座）です。

「well-being」は 1948 年に設立された WHO（世界保健機関）の憲章中、前文に記されている「健康の定義」の核となる言葉です。以来、日本でも広く知られるようになりました。健康の定義は保健・医療・福祉・国民生活などあらゆる分野の基本、その基本中の基本が「well-being」です。しかし well-being を日本語に訳すのは簡単なことではなく「福祉」「安寧」「福利」「良好な状態」「満たされた状態」など様々な表現が使われました。現在はカタカナの「ウェルビーイング」という表現も比較的よく用いられます。無理して漢字で書かなくても良いのかもしれません。しかし言葉の理解があいまいだと、健康を共通の価値や目標とする場合にも不都合が生じます。well-being を「可視化、見える化」し、その意味を明瞭に把握し、私たちの生活の中に well-being をしっかり位置づけることが大切です。

私はこの「well-being」を団体名とする NPO 法人ウェルビーイングのメンバーです。NPO ウェルビーイングは、前身の福岡予防歯科研究会時代からだと、既に 40 年以上にわたり、歯科保健の分野で活動を続けています。2011 年には NPO として、日本健康教育学会：第 20 回学術大会の開催もお手伝いしました。福岡で、筒井昭仁先生を学会長に開催された学術大会の特色は、well-being の可視化に取り組んだことでした。まず筒井先生は大会メインテーマを well-being とし、樹木イメージをロゴマークに採用しました。デザインしたのは上村奈央子さんです。

次に筒井先生と NPO が取り組んだのが、樹木イメージから出発して well-being を可視化・言語化するワークショップです。ワークショップではほぼ 100 名の参加者が 13 のテーブルに分かれました。各テーブルでは 7～9 名の参加者が、模造紙に描かれた根と幹と枝からなる樹木イメージを見ながら、作業を進めました。各自が考える well-being を単語か短文で、付箋紙に書きつけ、書いた付箋紙を樹木イメージ図に貼り付けていきました。付箋紙でおおわれた図には、さらに色マジックでまとめのための線や文字が描かれ、well-being 樹が生まれました。

完成した 13 本の well-being 樹のうち、要素がバランスよく盛り込まれていた 7 本について、要約した図を示します。これらの well-being 樹には「a 健康や身体」「b 現在の生活や社会基盤」「c 生きる上での潤いやゆとり」「d　家族や友人などヒトとのつながり」「e　やりがいや生きがいなど精神的な充実」の５つに分類される内容が含まれていました。

このようにして well-being という抽象的な概念が、樹木イメージの枠組みによって可視化され、そこに参加者の経験や記憶が引き寄せられ、結晶化し、well-being 樹となりました。福岡予防歯科研究会の設立時からのメンバーである中村譲治先生を筆頭著者とする論文になっていますので、ご覧ください。

さて上述の試みでは well-being を可視化・見える化しました。では、well-being をさらに身近に把握するために、概念を可触化することは可能でしょうか。触覚を用いて感じ考える試みは、ウェルビーイングのプロジェクト、Wify カフェで昨年から取り組み始めました。私たちの身の周りにある様々な物体に触れ、感じ考えることで、視覚的次元とは異なる、独特の深い理解が達成されつつあります。

触覚は興味深いテーマですが、well-being 樹の可触化は、これまでは夢物語でした。しかし 3D プリンターの普及により、可能性が現実化しました。まだ初歩的な段階ですが、可触化の最初の試みを以下に紹介します。

用いているのは、福岡大学医学部で始めて導入したポータブルの３D プリンター、SCOOVO です。well-being 樹の可触化に挑戦しています。

まだ初歩的な段階ですが、可触化することにより、言葉よりも更に実体験に近い、皮膚感覚を通して、well-being を語ることが、可能になりつつあります。

３D ウェルビーイング樹の試作品は NPO 総会の時、受付に置いておきます。皆さんも３D ウェルビーイング樹に触れ、共に well-being を考えてみませんか。

（守山正樹）